

飛騨山脈，立山・劔山域の3つの多年性雪渓の氷厚と流動

Quest of the first Japanese glacier in Mts. Tateyama and Mt. Tsurugi, the northern Japanese Alps

福井 幸太郎^{1*}, 飯田肇¹

FUKUI, Kotaro^{1*}, Hajime IIDA¹

¹ 立山カルデラ砂防博物館

¹Tateyama Caldera Sabo Museum

今まで日本に氷河は現存しないと考えられていた。

飛騨山脈，劔岳にある小窓雪渓および三ノ窓雪渓で，2011年6月上旬にアイスレーダー観測を行い，厚さ30m以上，長さ900～1200mに達する日本最大級の長大な氷体の存在を確認した。同年秋に行った高精度GPSを使った流動観測の結果，小窓，三ノ窓両雪渓の氷体では，1ヶ月間に最大30cmを超える比較的大きな水平方向の流動が観測された。流動観測を行った秋の時期は，融雪末期にあたり，雪氷体がもっとも厚く，流動速度が1年で最も小さい時期にあたる。このため，小窓，三ノ窓両雪渓は，1年を通じて連続して流動する「氷河」と考えられる。

立山東面の御前沢雪渓では，2009年秋にアイスレーダー観測を行い，雪渓下流部に厚さ約30m，長さ400mの氷体を確認した。2010年と2011年の9～10月に高精度GPSを使って氷体の流動観測を行った結果，誤差以上の有意な水平方向の流動が観測された。流動速度は1ヶ月あたり10cm以下と小さいものの，2年連続で秋の時期に流動している結果が得られたため，御前沢雪渓も「氷河」と考えられる。

キーワード: 氷河, 多年性雪渓, 立山, 劔岳, 流動

Keywords: glacier, perennial snow patch, Mts. Tateyama, Mt. Tsurugi, glacier flow